

株式会社アーレスティ

2014年3月期 第3四半期 決算説明資料



2014年3月18日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2014年3月期第3四半期決算概況
- ◆ 今期の見通し

TOPICS

■2013年

- 3月 旧浜松工場の旧豊橋工場へ(東海工場)の集約完了
アーレスティプリテック豊橋工場増築工事着工
- 4月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工
アーレスティウイルミントン増築工事着工
- 7月 アーレスティプリテック豊橋工場増築工事竣工
- 8月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工
- 9月 合肥アーレスティ拡張工事竣工
アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工

今後の予定

■2014年

- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工予定
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工予定

2014年3月期第3四半期決算概況



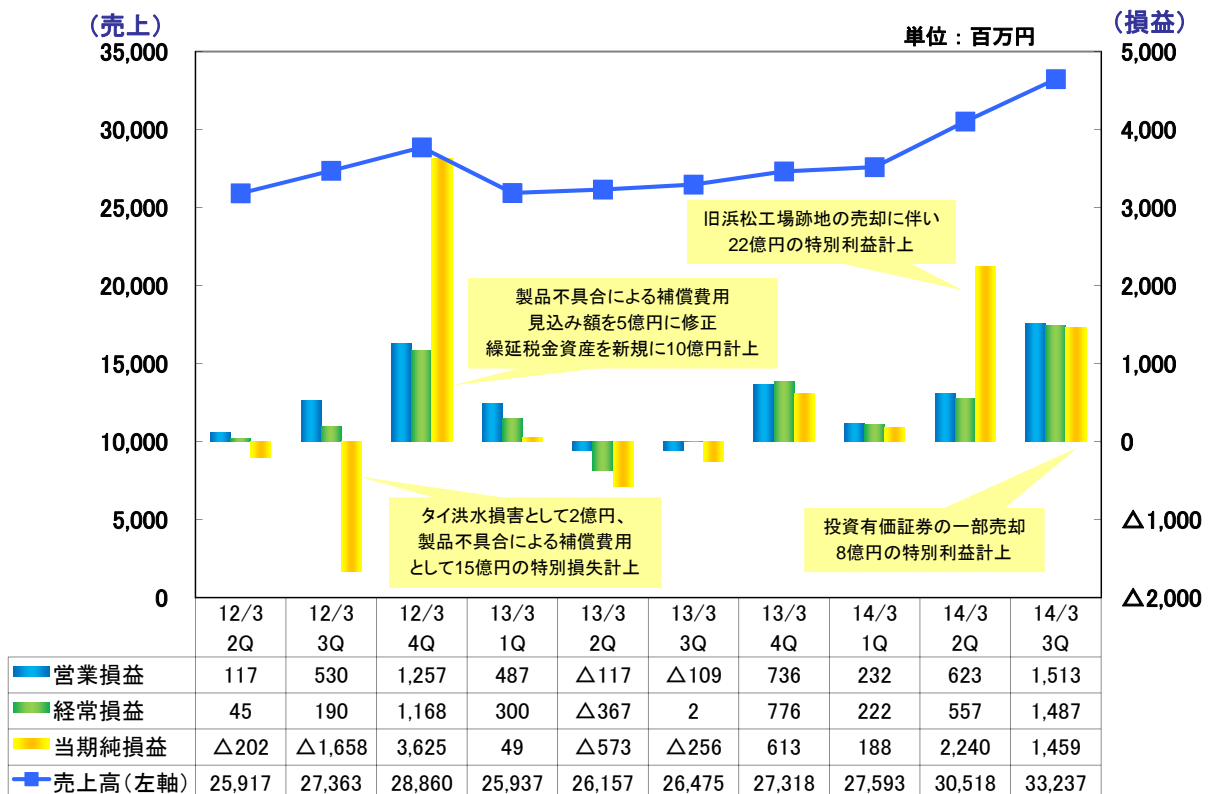
2014年3月期第3四半期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2013年3月期 第3四半期累計		2014年3月期 第3四半期累計		増減	
売上高	78,569	100%	91,348	100%	12,779	16.3%
営業利益	261	0.3%	2,368	2.6%	2,107	804.3%
経常利益	△ 65	△0.1%	2,266	2.5%	2,331	—
四半期純利益	△ 780	△1.0%	3,887	4.3%	4,667	—
EPS	△ 36.21		180.19		216.40	

- ◆ 売上高: 国内ではエコカー補助金終了による反動減等の影響(特に1Q)による減少があったものの、消費増税前の駆け込み需要増、地金市況影響等により微増、海外では受注増と円安基調にある為替影響等により、売上高は913億円(前期比16.3%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 今期より変更した減価償却方法の影響による増益効果に加え、増収効果、原価低減効果等により、営業利益は23億円(前期比9倍)となった。
- ◆ 経常利益: 営業外費用の支払利息が182百万円増加しているものの、営業外収益の為替差益402百万円(前年同期は75百万円)を計上していることから、経常利益は22億円となった。
- ◆ 四半期純利益: 増減の主な理由は、経常利益の増加のほか、旧浜松工場跡地の売却による特別利益22.8億円、投資有価証券の一部売却による特別利益8.3億円の計上による。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

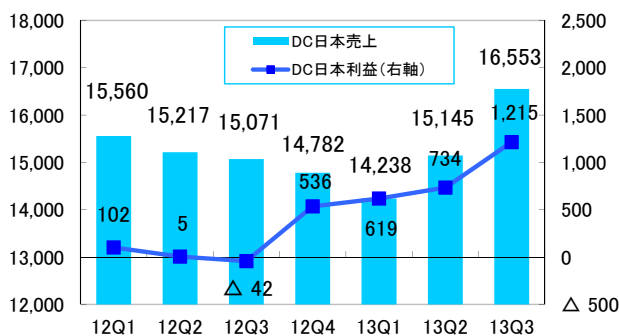
(単位：百万円)

		2013年3月期 第3四半期累計		2014年3月期 第3四半期累計		増減	
日本	売上	45,848	100%	45,936	100%	88	0.2%
	セグメント 損益	65	0.1%	2,568	5.6%	2,503	39倍
北米	売上	16,102	100%	24,431	100%	8,329	51.7%
	セグメント 損益	607	3.8%	245	1.0%	△ 362	△59.6%
アジア	売上	12,802	100%	16,113	100%	3,311	25.9%
	セグメント 損益	△ 423	△3.3%	△ 493	△3.1%	△ 70	-

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

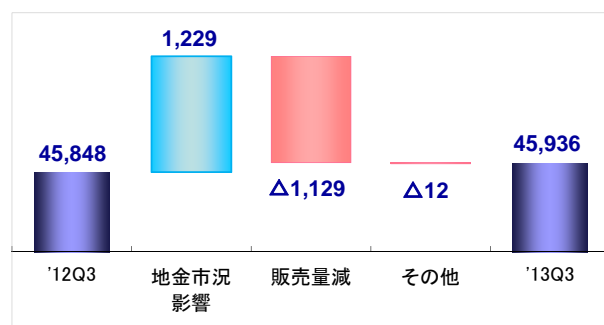
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



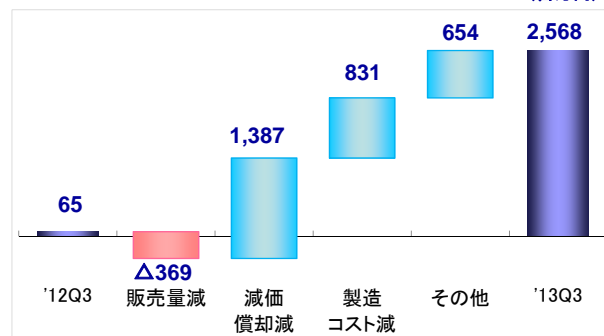
エコカー補助金終了による反動減等による売上の減少があったものの、消費税増税前の駆け込み需要等による増加、地金市況の影響により、売上高は微増となった。

セグメント利益は、販売量減少の影響があったものの、減価償却方法の変更を含む減価償却費の減少、製造コスト削減の効果等により、大幅に改善し25億円(前年同期比39倍)となった。

売上高増減要因 (百万円)

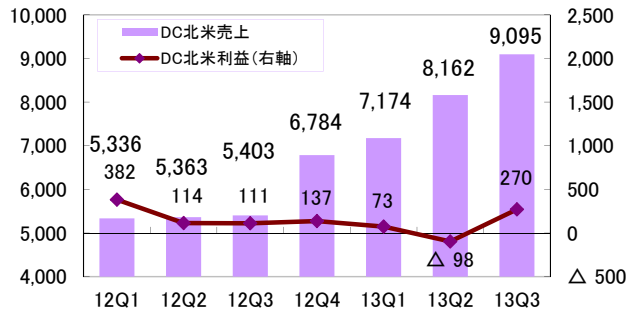


セグメント損益増減要因 (百万円)

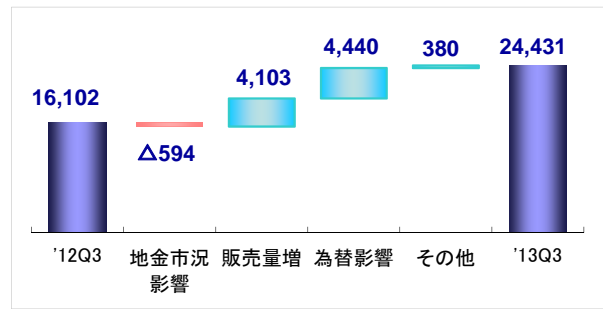


ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



売上高増減要因 (百万円)



アメリカ: 好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、一時的な費用増により利益が減少。

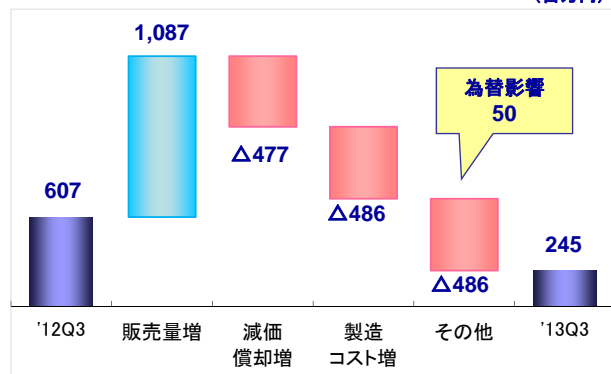
メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は大幅に増加するも、高負荷に伴う製造コストの増加及び減価償却費の増加の影響等によりセグメント利益は減少。3Q(3ヶ月)では改善。

北米の収益は回復しつつある。

※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

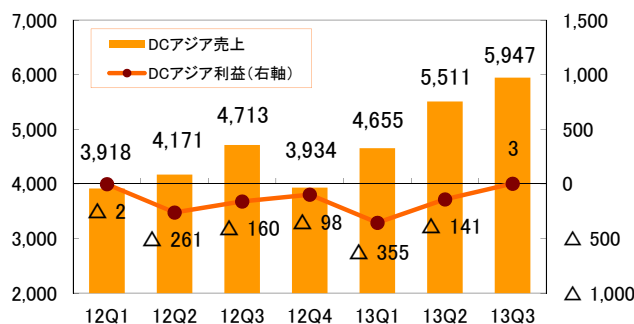
平均レート(12Q3→13Q3)
米\$ 80.43→99.22
メ\$ (米\$) 79.07→95.61

セグメント損益増減要因 (百万円)

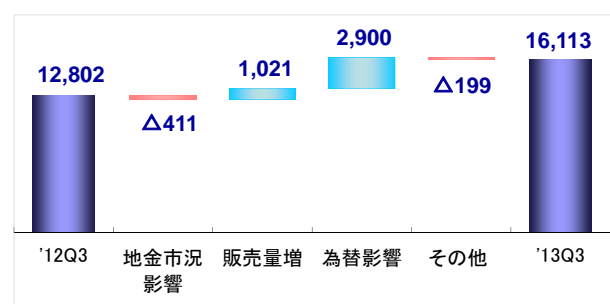


ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)



売上高増減要因 (百万円)



中国: 日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻りつつある中、為替影響を除く売上高は10%増。減価償却費の増加、日本へのロイヤルティ支払の増加等の影響により、利益は減益。

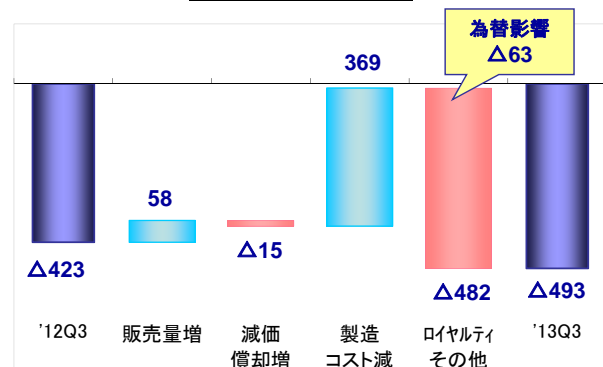
インド: 売上高は想定を下回っているものの前年同期より増加し、減価償却方法変更の影響も相まって、損失は縮小。

アジアの収益は改善しつつある。

※中国 1-12月
インド 4-3月

平均レート(12Q3→13Q3)
人民元 12.51→15.51
インドルピー 1.48→1.66

セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2013年3月期 第3四半期累計		2014年3月期 第3四半期累計		増減	
アルミニウム 事業	売上	2,776	100%	3,438	100%	662	23.8%
	セグメント 損益	48	1.7%	3	0.1%	△ 45	△ 93.7%
完成品事業	売上	1,039	100%	1,427	100%	388	37.4%
	セグメント 損益	△ 35	△ 3.4%	39	2.8%	74	—

アルミニウム事業： 二次合金地金の出荷量が前年同期比で10.3%増となったことに加え、為替影響により販売単価がアップしたこともあり、売上高は23.8%増。セグメント利益は、原材料市況の影響等により93.7%減となった。

完成品事業： 主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し、売上高は37.4%増加。セグメント利益は、売上高増加の効果等により、39百万円となった。

貸借対照表

(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期 第3四半期	増減
流動資産	37,153	42,854	5,701
現預金	6,087	6,507	420
売上債権	18,620	23,248	4,628
棚卸資産	9,417	10,200	783
固定資産	73,599	84,554	10,955
有形固定資産	65,150	74,190	9,040
資産合計	110,752	127,409	16,657
負債合計	71,416	79,913	8,497
買入債務	16,001	18,898	2,897
長短借入金	38,662	41,602	2,940
純資産合計	39,335	47,495	8,160

- ◆ 資産合計の増減のうち5割程度が為替影響による
- ◆ 売上増に伴い売上債権及び棚卸資産が増加
- ◆ 主に海外での事業拡大投資より有形固定資産が増加
- ◆ 営業CFを超える投資資金を借入金で調達
- ◆ 純利益の増加のほか、為替換算調整勘定の増加、有価証券評価差額金の増加により純資産が増加

今期の見通し



2014年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2013年3月期		2014年3月期 前回計画(11/11)		2014年3月期 今回計画(2/10)		対前回計画増減	
売上高	105,887	100%	123,500	100%	126,500	100%	3,000	2.4%
営業利益	997	0.9%	3,550	2.9%	4,250	2.9%	700	19.7%
経常利益	711	0.7%	2,750	2.2%	3,950	2.2%	1,200	43.6%
当期純利益	△ 167	△0.2%	4,100	3.3%	5,000	3.3%	900	22.0%
EPS	△ 7.76		190.05		231.77		41.72	

- ◆ 売上高: 国内は前回計画で消費増税前の駆け込み需要増の反動減が4Qから生ずると想定したが、これが想定程減少しない見込みであること、海外は主に想定為替レートの変更に伴い前回計画よりも増加の見込みであることから、連結売上高は前回計画比30億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: 北米での一時的な減益が予想されるものの、主に国内の増収に伴う効果、アジアでの収益改善により、前回計画比7億円増を予想。
- ◆ 当期利益: 旧浜松工場跡地売却による約22億円(上期実績)、投資有価証券の一部売却による約8億円(3Q実績)を特別利益として織り込み。
前提為替レート(通期平均): 98.58円/米ドル、15.8円/人民元、1.67円/インドルピー

2014年3月期業績予想

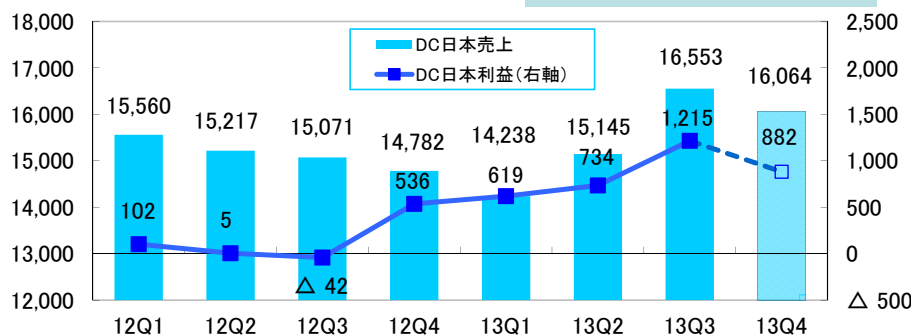
(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 前回計画(11/11)	2014年3月期 今回計画(2/10)	対前回計画 増減	対前回計画 増減率
売上高	105,887	123,500	126,500	3,000	2.4%
ダイカスト日本	60,630	60,900	62,000	1,100	1.8%
ダイカスト北米	22,886	33,000	34,000	1,000	3.0%
ダイカストアジア	16,736	23,300	24,100	800	3.4%
アルミニウム	3,840	4,400	4,650	250	5.7%
完成品	1,793	1,900	1,750	△150	△7.9%
営業利益	997	3,550	4,250	700	19.7%
ダイカスト日本	601	2,900	3,450	550	19.0%
ダイカスト北米	744	900	700	△200	△22.2%
ダイカストアジア	△521	△350	50	400	—
アルミニウム	50	50	10	△40	△80.0%
完成品	78	50	40	△10	△20.0%
消去または全社	45	0	0	—	—
経常利益	711	2,750	3,950	1,200	43.6%
当期純利益	△167	4,100	5,000	900	22.0%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

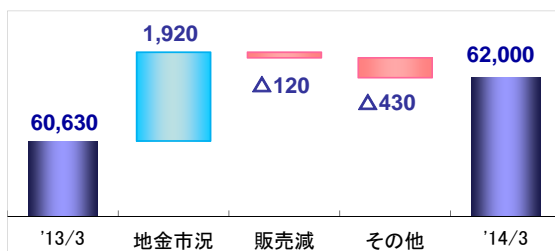
上期:売上高 29,383、利益 1,353
下期:売上高 32,617、利益 2,097



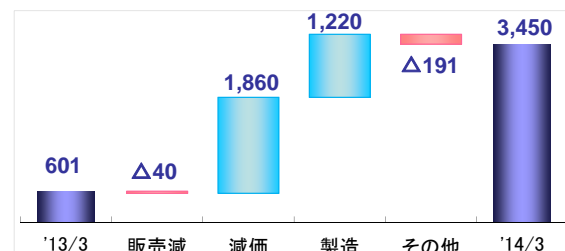
売上高:主要顧客の国内生産増に伴い、前回想定の販売量減の影響は縮小される見込みであり、かつ、地金市況の影響もあり、前回計画比11億円の増加。4Qは消費税増税の反動により減少すると予想(前回想定よりも緩和)。

利益:販売量の減少が軽減されること等により、前回計画よりも増益の見込み。

売上高増減予測(2/10修正) (百万円)



セグメント損益増減予測(2/10修正) (百万円)



対前回増減 160 1,070 △130 1,100

対前回増減 320 - 320 △90 550

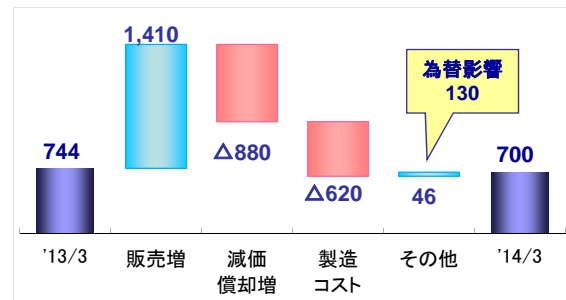
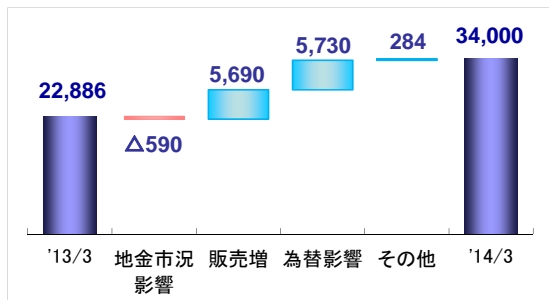
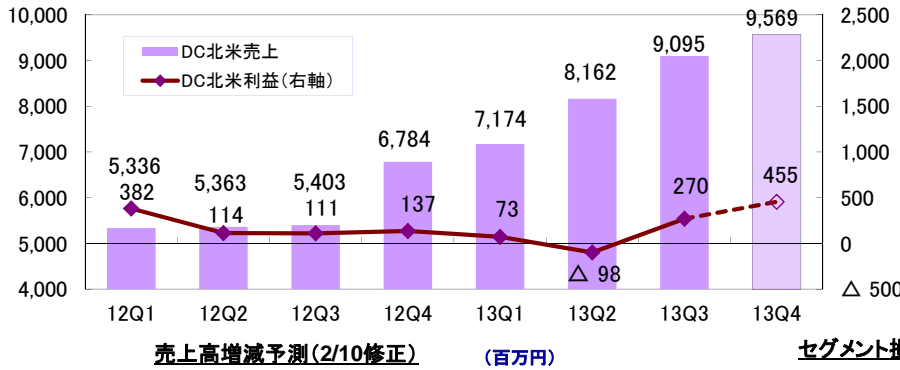
ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

上期:売上高 15,336、利益 $\Delta 25$
 下期:売上高 18,664、利益 725

売上高:地金市況、販売量増の減少等による減収はあるが、金型その他売上、為替影響により、前回計画も10億円増加。売上高は順調に増加。

利益:増産対応の一時的な費用増により、前回計画よりも減益の見込みであるが、北米の収益は回復しつつある。



対前回増減 $\Delta 80$ 360 510 210 1,000

対前回増減 90 30 $\Delta 320$ - $\Delta 200$

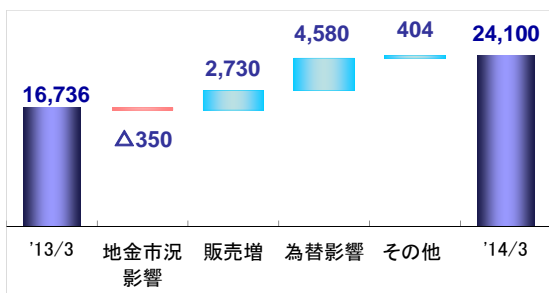
ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

上期:売上高 10,166、利益 $\Delta 496$
 下期:売上高 13,934、利益 546

売上高:主に想定為替レートの変更により、前回計画よりも7億円増加。売上高は順調に増加。

利益:増収効果及び製造コストの削減により、中国広州の利益の増加、中国合肥の4Qでの黒字化、インドの損失の縮小が見込めることから前回計画よりも増益の見込み。
 アジアの収益性は改善しつつある。



対前回増減 70 20 440 270 800

対前回増減 60 70 90 180 400

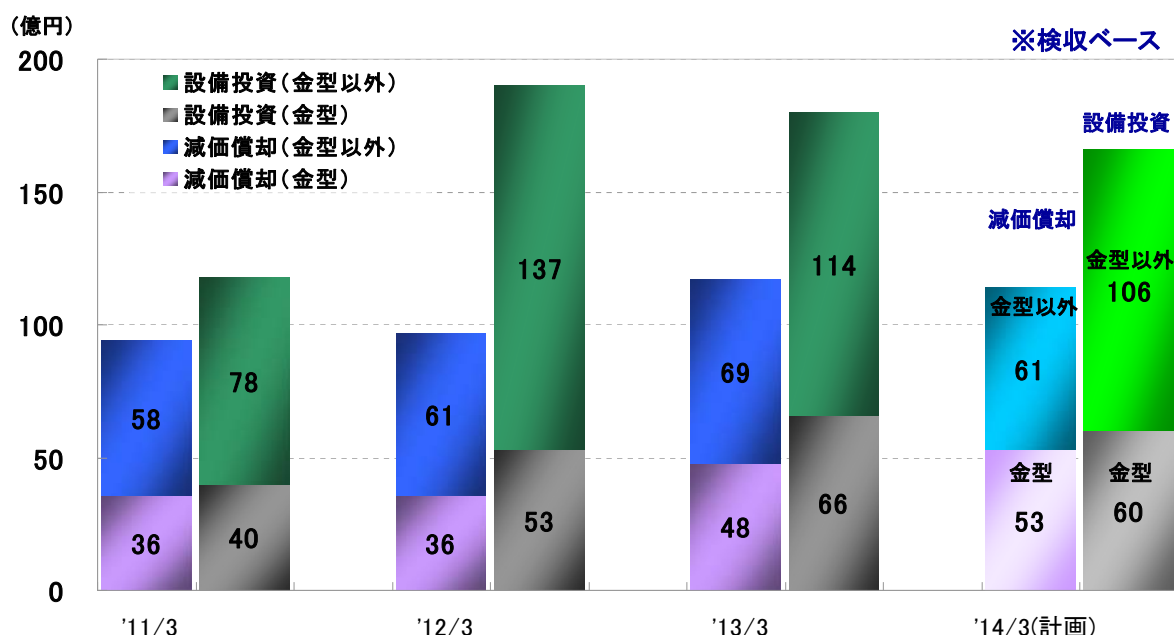
配当の状況

(単位:円)	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	5	12	6	3	14
中間配当	-	6	3	3	8
期末配当	5	6	3	-	6
一株当たり純損益(連結)	△ 2.77	68.80	65.87	△ 7.76	231.77
配当性向(連結)	-	17.4%	9.1%	-	6.0%

- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を予想。
(中間配当は、創業75周年記念配当5円を含む8円を実施)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

- ◆ 海外ダイカスト事業の拡大は進めるものの、従来よりも設備投資を抑制



※2014/3期より、グローバル化の進展を契機に有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法(金型に関しては生産高比例法等)に変更、並びに耐用年数を使用実態にあわせて変更。これにより従来方法に比べて減価償却費が約20億円減少。

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。